御書①一妙一尼御前御消息

※御書本文については語群がなくても語句を記入できるように覚えて下さい。

（　Ａ　）を信ずる人は（　Ｂ　）のごとし（　Ｂ　）は必ず春となる、いまだ昔よりきかず・みず（　Ｂ　）の秋とかへれる事を、いまだきかず（　Ａ　）を信ずる人の凡夫となる事を、経文には「若有聞法者無一不成仏」ととかれて候

※本文中のＡには同じ言葉が入ります。それは何ですか。（　法華経　）
※本文中のＢには同じ言葉が入ります。それは何ですか。（　冬　）

※棒線Ｃの意味について正しいものに○、間違っているものに×をつけて下さい。
（　○　）もし仏法を聞く人があれば、一人として成仏しない人はいない。
（　×　）仏法を聞いたとしても、聞く人の状況によって成仏しない人がいる。
（　○　）仏法を信じて実践する人は、必ず仏の境涯を開くことができる。

※御書の大意を踏まえて次の文章の空欄Ｄ・Ｅに言葉を入れて下さい。

「妙一尼御前御消息」は、（　Ｄ　）に住む門下である（　Ｅ　）に送られたお手紙です。たとえ今は（　Ｆ　）のような厳しい境遇であっても、仏法を実践していけば必ず（　Ｇ　）の勝利を築くことができる。苦難の（　Ｈ　）の時こそ、成仏への絶好の転換点です。

Ｄ（　鎌倉　）　Ｅ（　妙一尼　）　※Ｄには地名を入れて下さい。

春　夏　秋　冬

から選んでＦ・Ｇ・Ｈを埋めて下さい。

Ｆ（　冬　）Ｇ（　春　）Ｈ（　冬　）

※次の文章は『新・人間革命』の一節です。
　御書の大意を踏まえて、次の文章の空欄に後の語群から選んで言葉を入れて下さい。

厳しい試練の（　冬　）も、勝利の（　春　）が来れば、すべては（　喜び　）に変わる。涙あっての笑いです。（　労苦　）あっての歓喜です。苦闘している時には、〝なんで自分だけ、こんな大変な思いをしなければならないのか〟と思うこともあるでしょう。しかし、それは、自ら願い求めた（　使命の舞台　）なんです。苦悩が深ければ深いほど、それだけ偉大な（　使命　）を担っているということなんです。

冬　春　使命の舞台　使命　喜び　労苦

※棒線Ｉのことを「教学入門」の学習の中で表現している言葉があります。当てはまる言葉に○をつけて下さい。
（　○　）願兼於業
（　　）宿命転換
（　　）一生成仏

一御書②一椎地四郎殿御書

※御書本文については語群がなくても語句を記入できるように覚えて下さい。

法師品には若是善男子善女人乃至則如来使[A]と説かせ給いて僧も（　俗　　）も
尼も（　女　　）も（　一句　）をも人にかたらん人は（　如来の使い　）と見えたり、
貴辺すでに俗なり（　善男子　）の人なるべし、此の経を一文（　一句　）なりとも
聴聞して神にそめん人は（　生死　）の大海を渡るべき（　船　）なるべし

※次の語群から正しい言葉を選んで本文の空欄に入れて下さい。

俗女	男	船	牛車	一句	如来の使	生死	仏界	悪人	善男子

※棒線Ａの意味について正しいものに〇、間違っているものに×をつけて下さい。
（　〇　）わずか一句だけでも人に仏法を語る人は全て、如来の使いである。
（　×　）広宣流布に活動する人は、立場は違っても全ての人が尊い如来の使いである。
（　〇　）仏法を実践して目に見える結果をあらわしている弟子だけが如来の使いである。

※御書の大意を踏まえて次の文章の空欄に後の語群から選んで言葉を入れて下さい。

広宣流布に励む人は、どのような立場であっても、苦悩の民衆を救う誓願を立てて生まれてきた最高に尊い「（　如来の使　）」そのものです。
本抄では、深く果てしない苦悩が三世にわたって連続していることを「（生死の大海　）」とたとえています。
（　法華経　）を一文一句でも聞いて心に染める人は「（　生死の大海　）」を渡って（　成仏　）という最高の幸福・勝利の境涯に到達できます。

このように本抄では
法華経を一文一句でも語る（　使命　）と
法華経を一文一句でも聞いて心に染める（　功徳　）が示されています。
そして一文一句でも語ること自体が立派な（　折伏　）行であり、その聖行には必ず（　福徳　）が薫るのです。

如来の使	生死の大海	使命	功徳	折伏	福徳	法華経	成仏	
釈尊	天台大師	三障四魔	第六天の魔王	涅槃経				

一御書③一四条金吾殿御返事（法華経兵法事）

※御書本文については語群がなくても語句を記入できるように覚えて下さい。

なにの兵法よりも（　法華経　）の兵法をもちひ給うべし、「諸余怨敵・皆悉摧滅」の金言むなしかるべからず、兵法剣形の大事も此の妙法より出でたり、ふかく（　信心　）をとり給へ、あへて（　臆病　）にては叶うべからず候

※次の語群から正しい言葉を選んで本文の空欄に入れて下さい。

法華経	臆病	信心	勇気	修行	兵法剣形	智慧	慈悲

※棒線Aの意味について正しいものに○、間違っているものに×をつけて下さい。

（　○　）法華経を受持する無量の功徳によって、一切の魔を打ち破り、それ以外の様々な敵をも打ち破ることができる。

（　×　）様々な怨みや敵によって、自分自身が負けてしまうことがある。

（　○　）法華経の兵法を用いれば、自分に襲いかかる障害や苦難を一つ残らず打ち破ることができる。

※御書の大意を踏まえて、次の文章の空欄に後の語群から選んで言葉を入れて下さい。

（　法華経　）は一切衆生の（　成仏　）を説いた最高の経典です。あらゆる境涯の衆生に（　仏　）と同じ生命が備わっていることを教え、その無限の力を開く道を説いています。

世間の様々な思想や技術等もすべて（　法華経　）から出たものです。それゆえにこの信心を実践し抜けば（　絶対勝利　）の人生が開かれるのです。

人生勝利の最大の敵は、苦難や困難そのものではなく、自身の心に巣食う（　臆病　）です。（　臆病　）に打ち勝つ中で、不可能を可能にする無限の生命力が発揮されるのです。

法華経	仏	絶対勝利	相対的幸福	臆病	成仏	世法	蔵の財

【御書三編を通して】

※お手紙を送られた弟子の説明について、誰のことか名前を語群から選んで書きなさい。

（　四条金吾　）日蓮大聖人の弘教の初期に入信し、鎌倉の門下の中心的存在となった。

（　椎地四郎　）四条金吾や富木常忍と親交があり大聖人の葬列にも参列した。

（　妙一尼　）鎌倉に住む門下。竜の口法難や佐渡流罪の大難の渦中でも信仰を貫いた。そのために夫は所領を没収され大聖人が佐渡から戻る前に亡くなった。

妙一尼	椎地四郎	四条金吾	千日尼	寂日房